

愛媛支部

2019年度 ひめ通研定期総会

4月27日、愛媛県視聴覚福祉センターで、2019年定期総会を開催しました。2018年度の活動報告や2019年度の計画、役員改選など、これから1年間のひめ通研の進んでいく方向について、役員から丁寧な説明がありました。また、質疑応答では、行事の内容や広報の方法などについて、さまざまな質問や提案が出され、熱い討議が繰り広げられました。



午後からは、記念講演が行われました。昨年度に引き続き、日本ろう者劇団の砂田アトムさんを講師にお迎えして、「私の夢」というテーマでお話を伺いました。夢を抱いて愛媛から広い世界へ飛び立ったアトムさんの生き生きとした語りに、参加者全員がすっかり引き込まれ、あっという間に予定の講演時間が過ぎていきました。今回は、総会前の5日間、連続講座の講師としてもお話しいただき、たくさんの方の話を聞いていただきました。愛媛で手話に携わる私たちに



とって、本当に密度の濃い、夢のようなひとときでした。ここで感じたこと、学んだことをその場だけで忘れてしまうことなく、日々の活動につなげていきたいと思えます。

平成から令和へ 幕開けとなる総会

香川支部

4月21日（日）香川県聴覚障害者福祉センターにて定期総会が開催されました。

恒例の曾我部会長のあいさつ、公益社団法人香川県聴覚障害者協会 近藤理事長のご祝辞に加え、今年は香川県健康福祉部障害福祉課長 久保幸司様を来賓としてお招きし、ご祝辞をいただきました。来年の40周年記念行事もお声をかけていますが、まずは当会の活動を知っていただきたく今回の運びとなりました。

会長からの総括、各部局より2018年度の活動・決算報告、及び2019年度の計画・予算案を総会資料に添って説明しました。会員の方から「手話言語条例」の進捗状況等の情報についての質問・ご意見をいただき総会は無事に終了しました。これからの新規会員さんの声や、継続していただいた会員さん皆さんの声を拾い上げながら活動をして、40周年記念の総会・式典にはたくさんの方の会員さんに出席していただけるよう役員全員で頑張りたいと思います。



(左写真：近藤理事長、右写真：久保幸司様)

あさいと
結核

2019年度第1回定例学習会

4月21日の総会後に、社団法人高知県聴覚障害者協会理事の高橋靖子氏をお招きして定例学習会を開きました。

先ず「私の生き立ちと手話との結びつき・関わりを話します」との言葉で始まり、小学生の時に失聴し、その後のろう学校での生活、社会に出てからのご苦労を分かりやすくお話しいただきました。また、私達の機関紙について「講演会や学習会では自分たちはメモがとれない、でもとさ通研の機関紙を読むことで内容を確認できる」と集まった22名に対し読む事を勧めてください嬉しく思いました。それから一人一人に手話の学習を始めたいきっかけを聞きました。「参加者全員にきっかけを聞いてくれて仲間のことを知ることが出来て良かった」とアンケートに記入して下さった方がいました。そして口話教育時代を振り返り「手話を使った授業があったなら、もう1回勉強したい」と話されました。それを見て私も一緒に運動をし、一生学習することが必要と改めて感じる事が出来ました。



高知支部

平成31年度徳通研定期総会

平成31年度の定期総会を4月27日午前10時過ぎに開会しました。会長挨拶後、徳聴協平理事長から来賓祝辞を頂き、出席17人、委任28人で総会の成立を確認し議長を選出しました。今年は会計報告で不手際がないようにしました、やはり運営委員だけでは見落とししてしまうことがあり、会員の目で見ると疑いのない明瞭会計を心がけていくことが大切であることを実感しました。役員改選も会計のみで終わる予定でしたが、会員からの積極的な発言で結構時間が延びました。会員数も60人近くなると、会員同士の交流は活動があるなしで大きく違います。各組織の活動が機能するためには、やはり会員が参加してこそその活動です。



午後は、理事となって3年目の高田理事が昨年同様、「全通研を知ろう～みんなで語る徳通研～」と題して学習会を行いました。全通研は長期ビジョン「たかめる」「きわめる」「働きかける」を掲げていますが、みんなにとってキーワードとなるビジョンについて話し合いました。会員にもわかりやすく、写真等を使って学習を進めたので、全通研や徳通研のこれまでの活動を再確認することができたのではないかと思います。

徳島支部